

2035年に向けた新たなビジョンと環境目標について

2035年に向けた新たなビジョン

ミッション

世界のエネルギー問題に最先端のソリューションを提供する

2035年に向けた新たなビジョン（今回策定）

再生可能エネルギーと低炭素火力を組み合わせたクリーンエネルギー供給基盤を提供することにより、アジアを中心とした世界の健全な成長と発展に貢献する
To scale up its clean energy platform of renewables and low greenhouse gas thermal power, sparking sustainable development in Asia and around the world

（参考）2025年に向けたビジョン（2019年4月策定）

クリーン・エネルギー経済へと導く

LNGと再生可能エネルギーにおけるグローバルリーダー

2035年に向けたJERAの取り組みイメージ

現在

2035年

成長

アジアを中心とした世界の発展に貢献

安定供給

リプレース

LNG火力

石炭火力

非化石燃料によるDual Fire化

不確実性を補完*

再生可能エネルギー

クリーンエネルギー供給基盤

水素混焼

アンモニア混焼

再エネ導入拡大

+ Optimization
+ Digitalization

脱炭素

※変動性再生可能エネルギーの有する2つの不確実性に対応
①変動性再生可能エネルギーの拡大に伴う日々の出力変動
②曇天無風期間の継続など各種気象条件による週・月単位での需給変動

新たなビジョンの実現に向けた人財の確保

人財確保（採用・育成）に向けた取り組み

- 新卒社員受入開始
(約**100名**:2022年度)
- 高度な専門性を有する人財を中心にキャリア採用拡大
(約**130名**:2021年度)

新卒/キャリア
採用の拡大

- 海外拠点で約**300名**を
現地採用（2022年4月現在）
 - 本体と海外拠点双方の人財をボーダレスに活用

ボーダレスな
人財活用

- 自立的キャリア形成の仕組みを整備
- 市場水準の処遇提供と実力主義を徹底した**Job型人事制度**を導入

人財価値
の向上

D&I活動※
の推進

※ダイバーシティ&インクルージョンの略

- 「**社員やその家族の幸せ**」と「**企業価値向上**」をビジョンに掲げD&I推進施策を展開

JERA環境コミット2035

JERA環境コミット2035

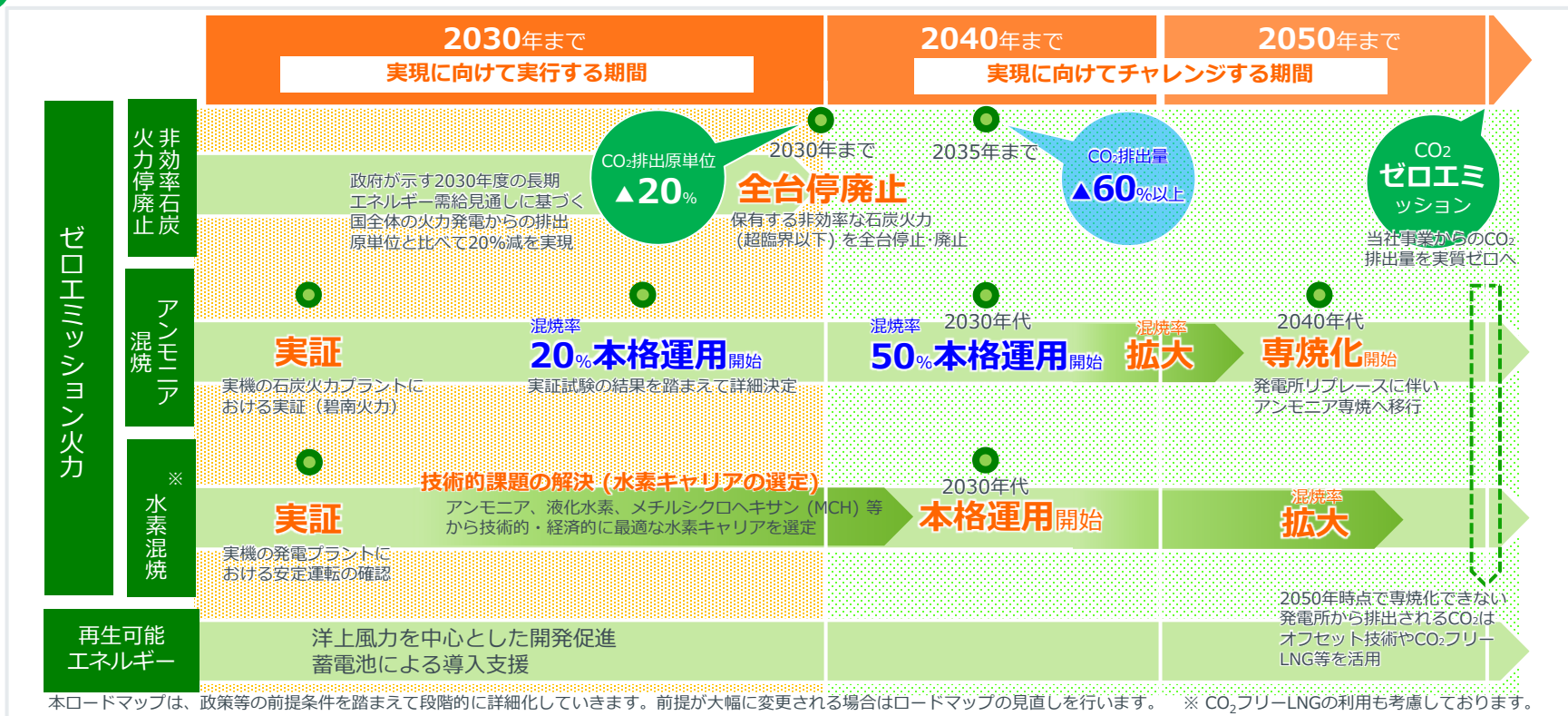
国内事業からのCO₂排出量について2013年度比で60%以上の削減を目指します。

- ・ 国の2050年カーボンニュートラルの方針に基づいた再生可能エネルギー導入拡大を前提とし、国内の再生可能エネルギーの開発・導入に努めます
- ・ 水素・アンモニア混焼を進め、火力発電の排出原単位低減に努めます

JERA環境コミット2035は政策との整合性およびその実現下における事業環境を前提としています

「JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ」の更新

JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ (2022年5月更新)



JERA環境コミット2030

- JERAはCO₂排出量の削減に積極的に取り組みます。国内事業においては、2030年度までに次の点を達成します。
- 石炭火力については、非効率な発電所(超臨界以下)全台を停廃止します。また、高効率な発電所(超々臨界)へのアンモニアの混焼実証を進めます。
 - 洋上風力を中心とした再生可能エネルギー開発を促進します。また、LNG火力発電のさらなる高効率化にも努めます。
 - 政府が示す2030年度の長期エネルギー需給見通しに基づく、国全体の火力発電からの排出原単位と比べて20%減を実現します。

JERA環境コミット2035

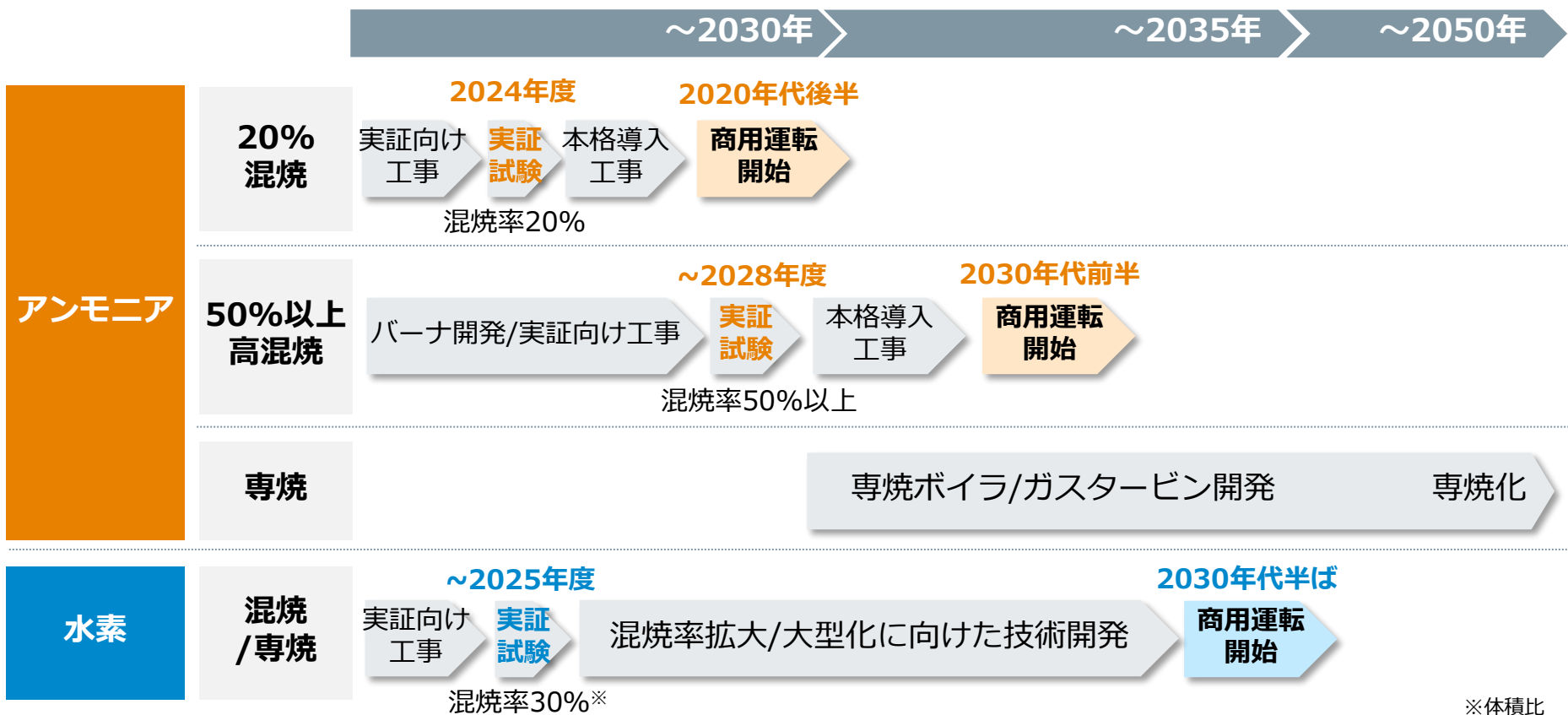
- JERAは次の取り組みを通じて、2035年度までに、国内事業からのCO₂排出量について2013年度比で60%以上の削減を目指します。
- 国の2050年カーボンニュートラルの方針に基づいた再生可能エネルギー導入拡大を前提とし、国内の再生可能エネルギーの開発・導入に努めます。
 - 水素・アンモニア混焼を進め、火力発電の排出原単位の低減に努めます。

「JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ」、「JERA環境コミット」は、脱炭素技術の着実な進展と経済合理性ならびに政策との整合性およびその実現下における事業環境を前提としています。

水素・アンモニアの導入計画

JERA環境コミットの達成に向けて、以下のタイムラインでの技術開発を目指す。

- アンモニアについては、**2024年度に碧南火力4号機において混焼率20%での実証試験を実施**、更に2028年度までに**碧南火力5号機において混焼率50%以上の高混焼試験を実施**。同混焼率での**商用運転を目指す**。
- 水素については、**2025年度までに自社のガスタービン燃焼器を用いた混焼率30%での実証試験を実施**。**2030年代半ばでの商用運転を目指す**。



※体積比